

国家試験を終えてやってくる学生に「どうだった?」と聞くと、ほとんどの学生が首をかしげながら「……」。なんとも煮え切らない様子なので「どうなの?」と催促すると「難しかったです」との答え。学生がこういう反応を示すときは「易しい問題と難しい問題の差が激しい国家試験」の場合が多い。「どうだった?」と問われた場合、当然ながら易しければ「易しかった」、難しければ「難しかった」の答えが返ってくる。学生が「……」と首をかしげるのは、「難易度の差の激しさ」を認識しているからである。その結果「易しかったのか?でも難しい問題もあったし……」と首をかしげる結果となる。そこで、追い討ちをかけて「どうなの?」と催促すると……。往々にして学生は「問題の難易度の差が激しい試験」は「難しい試験」と判断する。平易な問題が9割であっても、極端に難しい問題が1割出題されていたならば、まず学生はその試験を難しい試験と判断する。難しい問題は、学生に刻み込まれやすい。ましてや、試験中ともなれば「難しい」という印象は、かなり明確に刻み込まれることになる。難易度が高ければ高いほどその傾向は強い。学生が難しい試験と判断するのは「全体的にやや難易度が高い試験」よりも、「(平易な問題数にはあまり関係なく)難易度の高い問題が出題された試験」なのである。学生の「難しい試験」の判断基準は「難易度の高い問題の題数」といった“量”もさることながら“(たとえ題数は少なくとも)その難易度がいかに高いか”という“質”にその主導権が握られているのである。

今年の薬剤師国試を振り返る

学習は本番を想定し

第93回薬剤師国家試験の合格率は76.14%。92回の75.58%、91回の74.25%から比べると、一見合格率が高いように見受けられるが、ここ10年の国家試験(84回~)の中では、4番目に低い合格率である。新卒86.30%という数字は、新卒の合格率としては平均的な数字である。

ただし、注目すべきは母集団、すなわち新卒の総受験者数である。91回の8455人、92回の8791人に対し、93回は1万0025人。従来に比べ1000人以上増加していることになる。これは、2004年度に新設された薬科大学・薬学部の新卒者が、今回の国家試験から受験に加わったことによる結果である。同じ理由から94回国試においても、新卒受験者数の大幅な増加が認められるはずである。

「その他」の受験者数の合格率は48.96%。「その他」の受験者の内訳は様々であるが、既卒がその大部分を占めていると考えられる。そう考えるならば、既卒の合格率は約半分以下ということになる。以前は「その他」の合格率が50%を超える場合もしばしば見受けられたが、91回で38.67%と極端に低迷し

てからは、92回の49.05%と50%を切るパターンが続いている。データ的に見る限り、ここ数回の国試では、既卒の方はかなりの苦戦を強いられているといえよう。

全体的な評価に戻るが、前述の通り93回国試は「易しい問題と難しい問題の差が激しい国家試験：平易難解混淆試験」であった。さらに前述の通り平易難解混淆試験は、学生にとって「難しい試験」と判断される。そこで学生は、今回の試験は「難しい国家試験」と判断しているようなのだが……。

この判断は、いささか短絡的な判断といえよう。なぜなら、この判断では“平易な問題の存在”が消されてしまっているからである。本当に今回の国試は、総合的な判断として難しかったのであろうか?

少なくとも、私も含め私が懇意にしている先生方は皆一様にこう述べている。「難

しい問題も確かにあるが、ほとんどは過去問題を理解していれば解ける問題である」と。見る限り、聞く限りにおいては過去問題がベースとなっている問題が多い。ここ数年の国試に良くあるように、今回も“過去問題と同じ内容を違う方向から問う問題”が多数出題されているのだ。過去問題を理解していれば、十分な得点が期待できるのである。過去問題を理解しておくことは、国試受験における必須課題である。

言い換えれば、この必須課題をクリアしていれば、今回の国試において、そのほとんどを占めている“平易な問題”はクリアできたということになる。恐らく合否の分かれ目は、ここでついたのではないか?「過去問題はやりました」という学生のほとんどが、実際は過去問題をやっていない場合が多い。ただ過去問題集に目を通しただけ、単に「この問題はaが○だから(a、b)(a、c)のどちらか」と答探しをやっただけ……。これらは、いずれも誤った過去問題の勉強方法である(正確には勉強方法とは呼べない代物である)。「その問題の内容」「問われている真意」を一つひとつ把握していくことこそが、過去問題の正しい勉強方法なのである。

非常に地味であるかもしれないが、物事の基礎を成す大事な部分は、いつだって地味な、一見誰にだってできることの繰り返しなのである。

大リーグで活躍している松井秀喜選手が重視している練習は素振りだそうである。そんな松井選手は素振りに関して次のように述べている。「大事なのは『ただ振る』のではなく『本番をイメージして振る』こと」と。過去問題の勉強にもコレは言える。「大事なのは『ただやったという既成事実を作る』ことではなく『問われている内容や真意を把握する』こと」であると。やはり、過去問題をしっかりと勉強することは、何年経とうとも国試対策の定石であることは間違いのないようである。

第93回薬剤師国家試験 寸評

【基礎薬学】

有機化学、物理化学は難易度的には普通か、いつもよりやや易しいレベル。分析化学や生化学に関しても、過去問題を理解しておけば解ける問題が多い。しかし、機能

形態学に関しては3題ほど非常に細かい部分まで問う問題が出題されている。分子生物学においても、過去問題を理解しているだけでは対応できない、難易度の高い問題が出題されている。

全国132店舗・関西62店舗  
(2008年3月現在)

私たちと一緒に働きませんか?

店舗見学 同時開催 会社説明会 平日も開催  
毎週土曜日開催!

採用フリーダイヤル

ハヤク ナ オ ロ

0120-89-7060

ホームページ

http://www.frontier-ph.com

私たちは、ワタキューグループの一員です。

フロンティアは全国に130店舗の調剤薬局を展開しております。

「心」を社とす医療、福祉、健康関連企業であるワタキューグループの一員として、

調剤だけにとどまらず、栄養相談、居宅支援まで患者様のニーズに幅広く応える

「トータルケア」を基本に、心温まる薬局サービスを目指しています。

患者様に信頼される薬のスペシャリストとして、フロンティアとともに学び、成長し、

私たちと一緒に新時代の薬局を築いていきませんか。

株式会社フロンティア

ワタキュー薬局 フレンド薬局 ワタキューフジタ薬局 フォレスト薬局

〒532-0003 大阪市淀川区宮原3-5-36 新大阪MTビル2号館14階  
TEL 06-6396-8100 FAX 06-6396-8101 E-MAIL soumu@frontier-web.jp